

第40回日本国際保健医療学会学術大会
教育研修委員会企画自由集会

グローバルヘルスにおけるキャリアパス ～はじめの一步の次を拓くライフデザイン～

海外経験を活かして活躍されている方々に
経験を共有していただき、議論の場を設けます。フロアの皆様のインプット也大歓迎！

企画/座長 東京都立豊島病院 足立拓也
北里大学看護学部 田辺幸子

日時・会場

2025 年 11 月 1 日 土 15:30～16:30
【第3会場】大学本館 209

パネリストの自己紹介



石井清志氏 株式会社薬ゼミ情報教育センター 国際事業部（作業療法士）
作業療法士として臨床や教育、研究の現場を経験した後、国際協力や医療コンサルティングへと活動の場を広げてきました。現在は株式会社薬ゼミ情報教育センター国際事業部に所属し、中央アジアを中心としたJICA研修や医療人材育成、医療システム構築支援に従事しています。多様なキャリアの積み重ねを通じて、実践現場と政策・国際協力をつなぐ役割を担っています。



笹川恵美氏 日本赤十字看護大学国際保健助産学専攻（助産師）
助産師として5年半の臨床経験後、JOCVとしてメキシコの保健センターに赴任しました。2年間の活動は充実していましたが、自身の力不足も痛感し、帰国後は公衆衛生を学ぶため国立医療科学院へ進学し、MPHを取得。その後、ナウル共和国でのUNV活動やエルサルバドルでのシャーガス病対策プロジェクト専門家等を務めましたが、日本での助産師教育に携わりたいという思いが強まっていきました。東京大学でPh.D取得後は、看護師・助産師教育に従事しつつ、海外の母子保健プロジェクトにも関与し、国際的視野を持つ看護人材の育成に取り組んでいます。国際保健人材のキャリアは多様ですが、失敗を恐れずに、夢をずっと探求し続けて欲しいと思います。



西野恭平氏 国境なき医師団／一般社団法人Seeds代表（医師／疫学専門家）
大学時代にフィリピンを訪れた際、ストリートチルドレンなど世界の現実を目の当たりにしたことをきっかけに国際医療を志す。アフガニスタンでの医療活動（NGOペシャワール会）を通じて、国際医療を自分のライフワークにしようと強く思い、その後ロンドン大学熱帯医学大学院修士課程、WHO本部勤務を経て、2018年より国境なき医師団に所属。長期化する難民・国内避難民に対する慢性疾患対応の必要性を主題に博士号取得。一方、国際医療活動の現場で、「なぜ世界中で同じような差別や分断が繰り返されるのか？」という問いに直面。国籍や宗教などを超えた本質的な人と人のつながりを増やしていくことを目的に、一般社団法人Seedsを設立。国際医療と社会活動、双方からの活動を継続している。



※本資料のSNS等への転載はご遠慮ください
本会は第40回日本国際保健医療学会学術大会のプログラムの一部です。
参加には参加登録費をお支払いください。

お問い合わせ 田辺幸子（教育研修委員）✉ stanabe@nrs.kitasato-u.ac.jp